

# 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2018(2019年更新版)に準拠して作成

処方箋医薬品

溶解希釈剤

日本薬局方

## 注射用水（注射用蒸留水）

注射用水「フソー」

注射用水PL「フソー」

注射用水バッグ「フソー」

Water for Injection "FUSO"

Water for Injection PL "FUSO"

Water for Injection Bag "FUSO"

剤形	水性注射剤
製剤の規制区分	処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）
規格・含量	IV-2.の項 参照
一般名	和名：注射用水（注射用蒸留水）（JAN） 洋名：Water for Injection （JAN）
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 販売開始年月日	X-8.の項 参照
製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：扶桑薬品工業株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	扶桑薬品工業株式会社 研究開発センター 学術室 TEL 06-6964-2763 FAX 06-6964-2706 (9:00~17:30/土日祝日を除く) 医療関係者向けホームページ <a href="https://www.fuso-pharm.co.jp/med/ph/">https://www.fuso-pharm.co.jp/med/ph/</a>

本IFは2023年12月（注射用水「フソー」）、2023年12月（注射用水PL「フソー」）、2023年12月（注射用水バッグ「フソー」）改訂の電子添文の記載に基づき改訂した。

最新の電子添文情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ <https://www.pmda.go.jp/>にてご確認ください。

## 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として、医療用医薬品添付文書（以下、添付文書）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合があり、製薬企業の医薬情報担当者（以下、MR）等への情報の追加請求や質疑により情報を補完してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための項目リストとして医薬品インタビューフォーム（以下、I Fと略す）が誕生した。

1988年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬）学術第2小委員会がI Fの位置付け、I F記載様式、I F記載要領を策定し、その後1998年に日病薬学術第3小委員会が、2008年、2013年に日病薬医薬情報委員会がI F記載要領の改訂を行ってきた。

I F記載要領2008以降、I FはPDF等の電子的データとして提供することが原則となった。これにより、添付文書の主要な改訂があった場合に改訂の根拠データを追加したI Fが速やかに提供されることとなった。最新版のI Fは、医薬品医療機器総合機構（以下、PMDA）の医療用医薬品情報検索のページ

(<http://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>)にて公開されている。日病薬では、2009年より新医薬品のI Fの情報を検討する組織として「インタビューフォーム検討会」を設置し、個々のI Fが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討している。

2019年の添付文書記載要領の変更に合わせ、「I F記載要領2018」が公表され、今般「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドライン」に関連する情報整備のため、その更新版を策定した。

## 2. I Fとは

I Fは「添付文書等の情報を補完し、医師・薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

I Fに記載する項目配列は日病薬が策定したI F記載要領に準拠し、一部の例外を除き承認の範囲内の情報が記載される。ただし、製薬企業の機密等に関わるもの及び利用者自らが評価・判断・提供すべき事項等はI Fの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたI Fは、利用者自らが評価・判断・臨床適用するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

I Fの提供は電子データを基本とし、製薬企業での製本は必須ではない。

### 3. I Fの利用にあたって

電子媒体の I F は、PMDA の医療用医薬品情報検索のページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って I F を作成・提供するが、I F の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や I F 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより利用者自らが内容を充実させ、I F の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、I F が改訂されるまでの間は、製薬企業が提供する改訂内容を明らかにした文書等、あるいは各種の医薬品情報提供サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、I F の使用にあたっては、最新の添付文書を PMDA の医薬品医療機器情報検索のページで確認する必要がある。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「V. 5. 臨床成績」や「XII. 参考資料」、「XIII. 備考」に関する項目等は承認を受けていない情報が含まれることがあり、その取り扱いには十分留意すべきである。

### 4. 利用に際しての留意点

I F を日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用していただきたい。I F は日病薬の要請を受けて、当該医薬品の製造販売又は販売に携わる企業が作成・提供する、医薬品適正使用のための学術資料であるとの位置づけだが、記載・表現には医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の広告規則や販売情報提供活動に関するガイドライン、製薬協コード・オブ・プラクティス等の制約を一定程度受けざるを得ない。販売情報提供活動ガイドラインでは、未承認薬や承認外の用法等に関する情報提供について、製薬企業が医療従事者からの求めに応じて行うことは差し支えないとされており、MR 等へのインタビューや自らの文献調査などにより、利用者自らが I F の内容を充実させるべきものであることを認識しておかなければならない。製薬企業から得られる情報の科学的根拠を確認し、その客観性を見抜き、医療現場における適正使用を確保することは薬剤師の本務であり、I F を活用して日常業務を更に価値あるものにしていただきたい。

(2020 年 4 月)

# 目次

I. 概要に関する項目	1	(1) 注意が必要な容器・包装，外観が特殊な容器・包装に関する情報	6
I-1 開発の経緯	1	(2) 包装	7
I-2 製品の治療学的特性	1	(3) 予備容量	7
I-3 製品の製剤学的特性	1	(4) 容器の材質	7
I-4 適正使用に関して周知すべき特性	1	IV-11 別途提供される資材類	7
I-5 承認条件及び流通・使用上の制限事項	1	IV-12 その他	7
(1) 承認条件	1		
(2) 流通・使用上の制限事項	1		
I-6 RMP の概要	1		
II. 名称に関する項目	2	V. 治療に関する項目	8
II-1 販売名	2	V-1 効能又は効果	8
(1) 和名	2	V-2 効能又は効果に関連する注意	8
(2) 洋名	2	V-3 用法及び用量	8
(3) 名称の由来	2	(1) 用法及び用量の解説	8
II-2 一般名	2	(2) 用法及び用量の設定経緯・根拠	8
(1) 和名(命名法)	2	V-4 用法及び用量に関連する注意	8
(2) 洋名(命名法)	2	V-5 臨床成績	8
(3) ステム	2	(1) 臨床データパッケージ	8
II-3 構造式又は示性式	2	(2) 臨床薬理試験	8
II-4 分子式及び分子量	2	(3) 用量反応探索試験	8
II-5 化学名(命名法)又は本質	2	(4) 検証的試験	8
II-6 慣用名，別名，略号，記号番号	2	1) 有効性検証試験	8
		2) 安全性試験	8
		(5) 患者・病態別試験	8
		(6) 治療的使用	9
		1) 使用成績調査(一般使用成績調査，特定使用成績調査，使用成績比較調査)，製造販売後データベース調査，製造販売後臨床試験の内容	9
		2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した調査・試験の概要	9
		(7) その他	9
III. 有効成分に関する項目	3	VI. 薬効薬理に関する項目	10
III-1 物理化学的性質	3	VI-1 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	10
(1) 外観・性状	3	VI-2 薬理作用	10
(2) 溶解性	3	(1) 作用部位・作用機序	10
(3) 吸湿性	3	(2) 薬効を裏付ける試験成績	10
(4) 融点(分解点)，沸点，凝固点	3	(3) 作用発現時間・持続時間	10
(5) 酸塩基解離定数	3		
(6) 分配係数	3	VII. 薬物動態に関する項目	11
(7) その他の主な示性値	3	VII-1 血中濃度の推移	11
III-2 有効成分の各種条件下における安定性	3	(1) 治療上有効な血中濃度	11
III-3 有効成分の確認試験法，定量法	3	(2) 臨床試験で確認された血中濃度	11
		(3) 中毒域	11
		(4) 食事・併用薬の影響	11
		VII-2 薬物速度論的パラメータ	11
		(1) 解析方法	11
		(2) 吸収速度定数	11
		(3) 消失速度定数	11
		(4) クリアランス	11
		(5) 分布容積	11
		(6) その他	11
		VII-3 母集団(ポピュレーション)解析	11
		(1) 解析方法	11
		(2) パラメータ変動要因	11
		VII-4 吸収	11
IV. 製剤に関する項目	4		
IV-1 剤形	4		
(1) 剤形の区別	4		
(2) 製剤の外観及び性状	4		
(3) 識別コード	4		
(4) 製剤の物性	4		
(5) その他	4		
IV-2 製剤の組成	4		
(1) 有効成分(活性成分)の含量及び添加剤	4		
(2) 電解質等の濃度	4		
(3) 熱量	4		
IV-3 添付溶解液の組成及び容量	5		
IV-4 力価	5		
IV-5 混入する可能性のある夾雑物	5		
IV-6 製剤の各種条件下における安定性	5		
IV-7 調製法及び溶解後の安定性	5		
IV-8 他剤との配合変化(物理化学的変化)	5		
IV-9 溶出性	6		
IV-10 容器・包装	6		

VII-5 分布	12	(7)その他の特殊毒性	17
(1)血液-脳関門通過性	12		
(2)血液-胎盤関門通過性	12		
(3)乳汁への移行性	12		
(4)髄液への移行性	12		
(5)その他の組織への移行性	12		
(6)血漿蛋白結合率	12		
VII-6 代謝	12		
(1)代謝部位及び代謝経路	12		
(2)代謝に関与する酵素(CYP等)の分子種, 寄与率	12		
(3)初回通過効果の有無及びその割合	12		
(4)代謝物の活性の有無及び活性比, 存在比率	12		
VII-7 排泄	12		
VII-8 トランスポーターに関する情報	12		
VII-9 透析等による除去率	12		
VII-10 特定の背景を有する患者	13		
VII-11 その他	13		
<b>VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目</b>	<b>14</b>		
VIII-1 警告内容とその理由	14		
VIII-2 禁忌内容とその理由	14		
VIII-3 効能又は効果に関連する注意とその理由	14		
VIII-4 用法及び用量に関連する注意とその理由	14		
VIII-5 重要な基本的注意とその理由	14		
VIII-6 特定の背景を有する患者に関する注意	14		
(1)合併症・既往歴等のある患者	14		
(2)腎機能障害患者	14		
(3)肝機能障害患者	14		
(4)生殖能を有する者	14		
(5)妊婦	14		
(6)授乳婦	14		
(7)小児等	14		
(8)高齢者	14		
VIII-7 相互作用	15		
(1)併用禁忌とその理由	15		
(2)併用注意とその理由	15		
VIII-8 副作用	15		
(1)重大な副作用と初期症状	15		
(2)その他の副作用	15		
VIII-9 臨床検査結果に及ぼす影響	15		
VIII-10 過量投与	15		
VIII-11 適用上の注意	15		
VIII-12 その他の注意	16		
(1)臨床使用に基づく情報	16		
(2)非臨床試験に基づく情報	16		
<b>IX. 非臨床試験に関する項目</b>	<b>17</b>		
IX-1 薬理試験	17		
(1)薬効薬理試験	17		
(2)安全性薬理試験	17		
(3)その他の薬理試験	17		
IX-2 毒性試験	17		
(1)単回投与毒性試験	17		
(2)反復投与毒性試験	17		
(3)遺伝毒性試験	17		
(4)がん原性試験	17		
(5)生殖発生毒性試験	17		
(6)局所刺激性試験	17		
<b>X. 管理的事項に関する項目</b>	<b>18</b>		
X-1 規制区分	18		
X-2 有効期間	18		
X-3 包装状態での貯法	18		
X-4 取扱い上の注意	18		
X-5 患者向け資材	18		
X-6 同一成分・同効薬	18		
X-7 国際誕生年月日	18		
X-8 製造販売承認年月日及び承認番号, 薬価基準収載年月日, 販売開始年月日	19		
X-9 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等 の年月日及びその内容	19		
X-10 再審査結果, 再評価結果公表年月日及び その内容	19		
X-11 再審査期間	19		
X-12 投薬期間制限に関する情報	19		
X-13 各種コード	20		
X-14 保険給付上の注意	20		
<b>XI. 文献</b>	<b>21</b>		
XI-1 引用文献	21		
XI-2 その他の参考文献	21		
<b>XII. 参考資料</b>	<b>22</b>		
XII-1 主な外国での発売状況	22		
XII-2 海外における臨床支援情報	22		
<b>XIII. 備考</b>	<b>23</b>		
XIII-1 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うに あたっての参考情報	23		
(1)粉碎	23		
(2)崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性	23		
XIII-2 その他の関連資料	23		

# I. 概要に関する項目

## 1. 開発の経緯

「医療事故を防止するための医薬品の表示事項及び販売名の取扱いについて」(平成 12 年 9 月 19 日医薬発第 935 号)により、2008 年 7 月付で、ワッサー”フソー”から注射用水「フソー」へ、ワッサー「フソー」PL から注射用水 PL「フソー」へ、販売名変更の承認を受けた。  
また、注射用水バッグ「フソー」を 2014 年 6 月に上市した。

## 2. 製品の治療学的特性

注射用医薬品の溶解・希釈剤である。

本品は精製水を限外ろ過した後、蒸留して製造している。

## 3. 製品の製剤学的特性

ガラスアンプル（注射用水「フソー」）、プラスチックアンプル、プラスチックボトル（注射用水 PL「フソー」）、ソフトバッグ（注射用水バッグ「フソー」）の各種容器に充填した注射用水である。

## 4. 適正使用に関して周知すべき特性

適正使用に関する資材，最適使用推進ガイドライン等	有無
RMP	無
追加のリスク最小化活動として作成されている資材	無
最適使用推進ガイドライン	無
保険適用上の留意事項通知	無

## 5. 承認条件及び流通・使用上の制限事項

### (1)承認条件

特になし

### (2)流通・使用上の制限事項

該当しない

## 6. RMP の概要

該当しない（RMP 策定対象外の事例）

## Ⅱ. 名称に関する項目

### 1. 販売名

#### (1) 和名

注射用水「フソー」  
注射用水 PL「フソー」  
注射用水バッグ「フソー」

#### (2) 洋名

Water for Injection "FUSO"  
Water for Injection PL "FUSO"  
Water for Injection Bag "FUSO"

#### (3) 名称の由来

特になし

### 2. 一般名

#### (1) 和名(命名法)

注射用水(注射用蒸留水)(JAN)

#### (2) 洋名(命名法)

Water for Injection (JAN)

#### (3) ステム

該当しない

### 3. 構造式又は示性式

該当しない

### 4. 分子式及び分子量

分子式:  $H_2O$   
分子量: 18.0

### 5. 化学名(命名法)又は本質

Hydrogen Oxide (IUPAC)

### 6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

特になし

### Ⅲ. 有効成分に関する項目

#### 1. 物理化学的性質

##### (1) 外観・性状

無色澄明の液で、においはない。

##### (2) 溶解性

該当しない

##### (3) 吸湿性

該当資料なし

##### (4) 融点(分解点), 沸点, 凝固点

沸 点 : 100℃

凝固点 : 0℃

##### (5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

##### (6) 分配係数

該当資料なし

##### (7) その他の主な示性値

該当資料なし

#### 2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当しない

#### 3. 有効成分の確認試験法, 定量法

該当しない

## IV. 製剤に関する項目

### 1. 剤形

#### (1) 剤形の区別

水性注射剤

#### (2) 製剤の外観及び性状

無色澄明の液で、においはない。

#### (3) 識別コード

該当しない

#### (4) 製剤の物性

該当しない

#### (5) その他

特になし

### 2. 製剤の組成

#### (1) 有効成分(活性成分)の含量及び添加剤

##### 注射用水「フソー」

容量	5mL
有効成分	1 管中 日局 注射用水 (注射用蒸留水) 5mL

##### 注射用水 PL「フソー」

容量	20mL	100mL	500mL	1,000mL
有効成分	1 管中 日局 注射用水 (注射用蒸留水) 20mL	1 本中 日局 注射用水 (注射用蒸留水) 100mL	1 本中 日局 注射用水 (注射用蒸留水) 500mL	1 本中 日局 注射用水 (注射用蒸留水) 1,000mL

##### 注射用水バッグ「フソー」

容量	1,000mL
有効成分	1 袋中 日局 注射用水 (注射用蒸留水) 1,000mL

#### (2) 電解質等の濃度

該当資料なし

#### (3) 熱量

該当資料なし

IV. 製剤に関する項目

3. 添付溶解液の組成及び容量

該当しない

4. 力価

該当しない

5. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

6. 製剤の各種条件下における安定性

長期保存試験<sup>1)</sup>

注射用水「フソー」

	保存条件	保存期間	保存形態	結果
5 mL	25°C±2°C	3年	最終包装	変化なし

注射用水 PL「フソー」

	保存条件	保存期間	保存形態	結果
20 mL プラスチックアンプル	25°C±2°C 60%RH±5%RH	3年	最終包装	変化なし
100 mL スタンダブル				
100 mL 開栓用ダブル				
500 mL 開栓用ダブル				
1,000 mL 開栓用ダブル				
	室温			

注射用水バッグ「フソー」

	保存条件	保存期間	保存形態	結果
1,000 mL	室温	3年	最終包装	変化なし

7. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

8. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

pH 変動試験成績

注射用水「フソー」 5mL ガラスアンプル

pH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	←10.0 mL (0.1 mol/L HCl)						10.0 mL→ (0.1 mol/L NaOH)							
	1.31		6.47 (試料 pH)						12.60					

IV. 製剤に関する項目

注射用水 PL「フソー」 20mL プラスチックアンプル

pH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		←10.0 mL (0.1 mol/L HCl)					10.0 mL→ (0.1 mol/L NaOH)							
		1.55				5.75 (試料 pH)				12.27				

注射用水 PL「フソー」 100mL プラスチックボトル (スタンダブル)

pH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		←10.0 mL (0.1 mol/L HCl)					10.0 mL→ (0.1 mol/L NaOH)							
		1.32				5.95 (試料 pH)				12.61				

注射用水 PL「フソー」 100mL プラスチックボトル (開栓用ダブル)

pH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		←10.0 mL (0.1 mol/L HCl)					10.0 mL→ (0.1 mol/L NaOH)							
		1.36				5.90 (試料 pH)				12.52				

注射用水 PL「フソー」 500mL プラスチックボトル (開栓用ダブル)

pH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		←10.0 mL (0.1 mol/L HCl)					10.0 mL→ (0.1 mol/L NaOH)							
		1.34				5.98 (試料 pH)				12.63				

注射用水 PL「フソー」 1,000mL プラスチックボトル (開栓用ダブル)

pH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		←10.0 mL (0.1 mol/L HCl)					10.0 mL→ (0.1 mol/L NaOH)							
		1.40				5.87 (試料 pH)				12.50				

注射用水バッグ「フソー」 1,000mL ソフトバッグ

pH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		←10.0 mL (0.1 mol/L HCl)					10.0 mL→ (0.1 mol/L NaOH)							
		1.38				5.84 (試料 pH)				12.71				

9. 溶出性

該当しない

10. 容器・包装

(1) 注意が必要な容器・包装, 外観が特殊な容器・包装に関する情報

VIII-11.、X-4.の項 参照

#### IV. 製剤に関する項目

##### (2) 包装

###### 注射用水「フソー」

5 mL 50 管 ガラスアンプル

###### 注射用水 PL「フソー」

20 mL 10 管 プラスチックアンプル

20 mL 50 管 プラスチックアンプル

100 mL 10 本 プラスチックボトル スタンドダブル

100 mL 20 本 プラスチックボトル 開栓用ダブル

500 mL 20 本 プラスチックボトル 開栓用ダブル

1,000 mL 10 本 プラスチックボトル 開栓用ダブル

スタンドダブル (stand + able) : 輸液用のポリエチレン製ボトル

開栓用ダブル : 広口と細口の開栓口を有するポリエチレン製ボトル

###### 注射用水バッグ「フソー」

1,000mL 10 袋 ソフトバッグ

##### (3) 予備容量

本剤の表示量、及び本容器の混注可能量・全満量 (平均値)

容器の規格に基づいたおおよその値を示す。

単位 : mL

容器	表示量	混注可能量	全満量
ボトル	100	約 7	約 175
バッグ	1000	約 350	約 1,410

混注可能量 : 容器内の空間を残したまま、混注できる薬液の量

全満量 : 表示量 + 容器内の空気を抜いて混注できる薬液の量

混注により容器内圧が上がっている場合、針刺し時に噴き出し等を生じる恐れがある。

なお、ボトルは、空気を抜いて混注した場合、投与の際に通気針が必要となる。

##### (4) 容器の材質

注射用水「フソー」 : ガラス

注射用水 PL「フソー」、注射用水バッグ「フソー」 : ポリエチレン

ゴム栓 : エラストマー (100mL スタンドダブル)、イソプレン (1,000mL ソフトバッグ)

##### 11. 別途提供される資材類

特になし

##### 12. その他

特になし

## V. 治療に関する項目

### 1. 効能又は効果

注射用医薬品の溶解・希釈剤

### 2. 効能又は効果に関連する注意

設定されていない

### 3. 用法及び用量

#### (1) 用法及び用量の解説

注射用医薬品の溶解・希釈に適量を用いる。

#### (2) 用法及び用量の設定経緯・根拠

該当資料なし

### 4. 用法及び用量に関連する注意

設定されていない

### 5. 臨床成績

#### (1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

#### (2) 臨床薬理試験

該当資料なし

#### (3) 用量反応探索試験

該当資料なし

#### (4) 検証的試験

##### 1) 有効性検証試験

該当資料なし

##### 2) 安全性試験

該当資料なし

#### (5) 患者・病態別試験

該当資料なし

V. 治療に関する項目

(6) 治療的使用

- 1) 使用成績調査（一般使用成績調査，特定使用成績調査，使用成績比較調査），製造販売後データベース調査，製造販売後臨床試験の内容  
該当資料なし

- 2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した調査・試験の概要  
該当資料なし

(7) その他

特になし

## VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群  
該当しない

### 2. 薬理作用

#### (1) 作用部位・作用機序

本剤は注射剤の溶解希釈剤として用いる。

#### (2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

#### (3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

## **Ⅶ. 薬物動態に関する項目**

### **1. 血中濃度の推移**

#### **(1) 治療上有効な血中濃度**

該当資料なし

#### **(2) 臨床試験で確認された血中濃度**

該当資料なし

#### **(3) 中毒域**

該当資料なし

#### **(4) 食事・併用薬の影響**

該当資料なし

### **2. 薬物速度論的パラメータ**

#### **(1) 解析方法**

該当資料なし

#### **(2) 吸収速度定数**

該当資料なし

#### **(3) 消失速度定数**

該当資料なし

#### **(4) クリアランス**

該当資料なし

#### **(5) 分布容積**

該当資料なし

#### **(6) その他**

該当資料なし

### **3. 母集団(ポピュレーション)解析**

#### **(1) 解析方法**

該当資料なし

#### **(2) パラメータ変動要因**

該当資料なし

### **4. 吸収**

該当資料なし

## VII. 薬物動態に関する項目

### 5. 分布

#### (1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

#### (2) 血液-胎盤関門通過性

該当資料なし

#### (3) 乳汁への移行性

該当資料なし

#### (4) 髄液への移行性

該当資料なし

#### (5) その他の組織への移行性

該当資料なし

#### (6) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

### 6. 代謝

#### (1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

#### (2) 代謝に関与する酵素(CYP等)の分子種, 寄与率

該当資料なし

#### (3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

#### (4) 代謝物の活性の有無及び活性比, 存在比率

該当資料なし

### 7. 排泄

該当資料なし

### 8. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

### 9. 透析等による除去率

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

10. 特定の背景を有する患者

該当資料なし

11. その他

特になし

## Ⅷ. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

### 1. 警告内容とその理由

設定されていない

### 2. 禁忌内容とその理由

設定されていない

### 3. 効能又は効果に関連する注意とその理由

設定されていない

### 4. 用法及び用量に関連する注意とその理由

設定されていない

### 5. 重要な基本的注意とその理由

設定されていない

### 6. 特定の背景を有する患者に関する注意

#### (1) 合併症・既往歴等のある患者

設定されていない

#### (2) 腎機能障害患者

設定されていない

#### (3) 肝機能障害患者

設定されていない

#### (4) 生殖能を有する者

設定されていない

#### (5) 妊婦

設定されていない

#### (6) 授乳婦

設定されていない

#### (7) 小児等

設定されていない

#### (8) 高齢者

設定されていない

Ⅷ. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

設定されていない

(2) 併用注意とその理由

設定されていない

8. 副作用

設定されていない

(1) 重大な副作用と初期症状

設定されていない

(2) その他の副作用

設定されていない

9. 臨床検査結果に及ぼす影響

設定されていない

10. 過量投与

設定されていない

11. 適用上の注意

注射用水「フソー」

14. 適用上の注意

14.1 全般的な注意

使用時には、感染に対する配慮をすること。

14.2 薬剤調製時の注意

注射剤の溶解希釈剤として使用する場合は、注射用水が適切であることを確認すること。

14.3 薬剤投与時の注意

残液は使用しないこと。

<参考>

アンプルカット時

安全に使用するため、エタノール綿等で清拭することが望ましい。

## Ⅷ. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

### 注射用水 PL「フソー」

#### 14. 適用上の注意

##### 14.1 全般的な注意

14.1.1 使用時には、感染に対する配慮をすること。

14.1.2 注射針や輸液セットのびん針は、ゴム栓の刻印部（凹部）に垂直にゆっくりと刺すこと。斜めに刺した場合、削り片の混入及び液漏れの原因となるおそれがある。また、針は同一箇所を繰り返し刺さないこと。

##### 14.2 薬剤調製時の注意

注射剤の溶解希釈剤として使用する場合は、注射用水が適切であることを確認すること。

##### 14.3 薬剤投与時の注意

###### 〈製剤共通〉

14.3.1 残液は使用しないこと。

###### 〈100mL スタンダブル製剤〉

14.3.2 原則として、連結管を用いたタンデム方式による投与は行わないこと。輸液セット内に空気が流入するおそれがある。

14.3.3 容器の目盛りは目安として使用すること。

14.3.4 通気針は不要であるが、薬液量が少なくなると排出速度が低下してくるので、滴下速度に十分注意すること。

### 注射用水バッグ「フソー」

#### 14. 適用上の注意

##### 14.1 全般的な注意

14.1.1 使用時には、感染に対する配慮をすること。

14.1.2 注射針や輸液セットのびん針は、ゴム栓の刻印部（凹部）に垂直にゆっくりと刺すこと。斜めに刺した場合、削り片の混入及び液漏れの原因となるおそれがある。また、針は同一箇所を繰り返し刺さないこと。

##### 14.2 薬剤調製時の注意

注射剤の溶解希釈剤として使用する場合は、注射用水が適切であることを確認すること。

##### 14.3 薬剤投与時の注意

14.3.1 原則として、連結管を用いたタンデム方式による投与は行わないこと。輸液セット内に空気が流入するおそれがある。

14.3.2 容器の目盛りは目安として使用すること。

14.3.3 残液は使用しないこと。

## 12. その他の注意

### (1) 臨床使用に基づく情報

設定されていない

### (2) 非臨床試験に基づく情報

設定されていない

## IX. 非臨床試験に関する項目

### 1. 薬理試験

#### (1) 薬効薬理試験

「VI. 薬効薬理に関する項目」の項参照

#### (2) 安全性薬理試験

該当資料なし

#### (3) その他の薬理試験

該当資料なし

### 2. 毒性試験

#### (1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

#### (2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

#### (3) 遺伝毒性試験

該当資料なし

#### (4) がん原性試験

該当資料なし

#### (5) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

#### (6) 局所刺激性試験

該当資料なし

#### (7) その他の特殊毒性

該当資料なし

## X. 管理的事項に関する項目

### 1. 規制区分

製剤：処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）

有効成分：該当しない

### 2. 有効期間

3年

### 3. 包装状態での貯法

室温保存

### 4. 取扱い上の注意

注射用水「フソー」

設定されていない

注射用水 PL「フソー」、注射用水バッグ「フソー」

#### 20. 取扱い上の注意

20.1 液漏れの原因となるので、強い衝撃や鋭利なものとの接触等を避けること。

20.2 以下の場合には使用しないこと。

- ・外袋内や容器表面に水滴や結晶が認められる場合
- ・容器から薬液が漏れている場合
- ・性状その他薬液に異状が認められる場合
- ・ゴム栓部のシールがはがれている場合

### 5. 患者向け資材

くすりのしおり：なし

患者向医薬品ガイド：なし

### 6. 同一成分・同効薬

同一成分薬：日局 注射用水

同 効 薬：該当しない

### 7. 国際誕生年月日

不明

X. 管理的事項に関する項目

8. 製造販売承認年月日及び承認番号、薬価基準収載年月日、販売開始年月日

注射用水「フソー」

	許可番号	薬価基準収載年月日	販売開始年月日
5mL	27A1X00039	1958年5月13日	1958年5月13日

注射用水 PL「フソー」

	許可番号	薬価基準収載年月日	販売開始年月日
20mL・プラスチックアンプル	27A1X00039	1994年7月8日	1994年7月8日
100mL・スタンダブル		1987年10月1日	1987年10月1日
100mL・開栓用ダブル		1987年10月1日	1994年4月1日
500mL・開栓用ダブル		1976年4月1日	1994年1月5日
1,000mL・開栓用ダブル		1984年6月2日	1994年4月1日

注射用水バッグ「フソー」

	許可番号	薬価基準収載年月日	販売開始年月日
1,000mL	27A1X00039	2014年6月20日	2014年6月20日

なお、注射用水「フソー」、注射用水 PL「フソー」、注射用水バッグ「フソー」（日本薬局方 注射用水）は昭和54年10月1日に公布された薬事法の改正により、承認対象外である局方医薬品に指定された。

9. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

10. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

11. 再審査期間

該当しない

12. 投薬期間制限に関する情報

本剤は、投薬（あるいは投与）期間に関する制限は定められていない。

X. 管理的事項に関する項目

13. 各種コード

		HOT 番号	薬価基準収載 医薬品コード	個別医薬品コード (YJ コード)	レセプト 電算コード
注射用水「フソー」 5mL		111718904	7131400A1106	7131400A1106	620008373
注射用水 P L 「 フ ソ ー 」	20mL	111719606	7131400A2145	7131400A2145	620008371
	100mL	111722606	7131400A4016	7131400A4156	647130005 (620008372)
	500mL	111723304	7131400A5012	7131400A5098	647130006 (620007371)
	1,000mL	111724003	7131400A6019	7131400A6078	647130009 (620007372)
注射用水バッグ「フソー」 1,000mL		123605701	7131400H3018	7131400H3026	622618700 (622360501)

注：統一名収載品において、レセプト電算コード欄の( )内は銘柄名のコードを示す。

14. 保険給付上の注意

本剤は保険診療上の基礎的医薬品である。

## **X I . 文 献**

### **1. 引用文献**

- 1) 扶桑薬品工業株式会社（安定性試験）社内資料

### **2. その他の参考文献**

- 第十八改正 日本薬局方解説書（2021）

## **X II . 参考資料**

### **1. 主な外国での発売状況**

- (1) 本剤と同一製剤は外国で発売されていない。
- (2) 注射用水としては、各国で発売されている。(2026年4月時点)

### **2. 海外における臨床支援情報**

該当資料なし

## **XIII. 備 考**

### 1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

#### (1) 粉碎

該当しない

#### (2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性

該当しない

### 2. その他の関連資料

該当資料なし